

# 韓国夏期短期研修報告書 (東亜大学)

研修期間 2019年8月4日～8月17日

研修期間では午前中に韓国語の授業があり、午後には韓国の文化に触れたり、フィールドワークをした。

韓国語の授業は韓国語の実力により3つのクラスに分けられ、私の配属された1番上のクラスでは授業は全て韓国語で行われていたために韓国語の上達が早かったように感じた。また、この研修には中国人やイギリス人など多くの外国人も参加していたために必然的に英語を話さなければいけない機会が多かったのだが、英語を話すことに対する自信が以前よりもついたように思える。このことから、語学を学ぶ際は、実際にその語学を使って現地の人と積極的に話すことが大切であることを改めて感じた。

また、韓国のお寺に行ってお寺の住職さんのお話を聞いたり、韓国の伝統的な楽器を演奏して、隣国であるにもかかわらず日本と感性が少し異なるように思えた。この研修に参加する前は日本と韓国は非常に似ている国であると思っていたのだ。やはり、国の文化や伝統は現地に実際赴いてみないと分からないものであるなと思い、今後レポートなどで調べ物をする際は自分のいける範囲で実際に赴き調査することが大切であると学んだ。

最後に、この研修で1番感じ、今後の学校生活に結びつけていきたいと思ったことはメディアの真偽は自分で確かめるべきであるということである。日韓関係が悪化する現在、韓国に研修に行くことになってから毎日のようにテレビやスマホなどで韓国の情勢や町での日本人の待遇などを調べていたのだが、どの記事も韓国での日本人待遇は悪いという風にかかれていた。そのために私は研修前日までとてつもなく大きな不安を抱えていたのだが、いざ韓国に行ってみると、大学の学生や先生はもちろん、町の人たちも私たち日本人研修生にとっても親切にしてくださった。あるお店の人からは「日韓関係が悪い中来てくれてありがとう」とサービスをしていただいた。私はメディアを全て鵜呑みにして研修をキャンセルしなくて良かったなと心から思った。現地に赴かなければ韓国に対する印象が悪くなっていたし、何よりもこの人の暖かさに触れることができなかつたと思うからである。

今後の学校生活では、実践。このことを常に心において常に充実した悔いのない日々を送りたい。